

安全研究審議会
第4回会合議事録（案）

- ・日時：平成20年3月6日（木） 13：30～16：55
- ・場所：TKP田町ビジネスセンター カンファレンスルーム8B
（東京都港区芝5-29-12 三田中央ビル 8階）

・出席者

委員：佐藤委員長（原安協）、松本委員長代理（原子力安全基盤機構）、久木田（名古屋大学）、班目（東大）、森山（京都大学）、山下（原子力安全基盤機構）（順不同、敬称略）
オブザーバー：原子力安全委員会事務局、原子力安全保安院、原子力安全基盤機構
原子力機構：石島センター長、平野副センター長、鈴木副センター長、安濃田研究計画調整室長、その他

・議事

1. 前回議事録の確認
2. 重点安全研究の評価について
 - （1）重点安全研究についての安全研究委員会等における評価
（平成18年度の成果及び平成19年度以降の計画）
 - （2）平成18年度の主な成果
3. 安全研究施設の活用について
4. 核燃料施設でのリスク情報活用に向けた研究について
5. その他

・配付資料

- | | |
|------------------|---|
| 資料 No. 安研審 4-1 | 第3回安全研究審議会議事録（案） |
| 資料 No. 安研審 4-2-1 | 平成18年度の主な成果 |
| 資料 No. 安研審 4-2-2 | 重点安全研究についての安全研究委員会等における所見
（平成18年度の成果及び平成19年度以降の計画） |
| 資料 No. 安研審 4-2-3 | 18年度成果及び19年度以後の計画の概要 |
| 資料 No. 安研審 4-2-4 | 重点安全研究成果調査票（平成18年度） |
| 資料 No. 安研審 4-2-5 | 重点安全研究計画調査票（平成17年度～平成21年度） |
| 資料 No. 安研審 4-3 | 安全研究施設の活用について |
| 資料 No. 安研審 4-4 | 核燃料施設でのリスク情報活用に向けた研究
－「核燃料サイクル施設におけるリスク情報活用に関する |

<参考資料>

資料 No. 安研審 参 4-1 安全研究審議会委員名簿

資料 No. 安研審 参 4-2 重点安全研究評価報告書（平成 18 年度）

資料 No. 安研審 参 4-3 第 3 回安全研究審議会（速記録）

議事

1. 前回議事録の確認

事務局から安研審 4-1 に基づき、前回議事録の確認を行った。

2. 重点安全研究の評価について

安濃田研究計画調整室長から、原子力機構で実施している重点安全研究についてとりまとめた安研審 4-2-3～4-2-5 について簡単に紹介の後、安研審 4-2-1 に基づき、重点安全研究の平成 18 年度の主な成果と、安研審 4-2-2 に基づき、重点安全研究についての安全研究委員会等における所見について紹介があり、以下のような質疑応答が行われた。

- ・ 旧 JNC というか、研究開発部門で実施している重点安全研究をどのように位置付けて実施しているのか？

産業界と共同して R&D を実施している研究開発部門には、高い技術力があるのも事実であり、そのような部門と密接に連携を取りながら、成果を規制に活用していただけるよう、この安全研究審議会での評価・議論も踏まえ、透明性・中立性に配慮して、成果を発信していきたい。

- ・ 重点安全研究の多くが受託として実施されているが、受託元を満足させるだけでなく、原子力安全研究を全体で考えたときに、長期的視点に立った進め方も検討して欲しい。

確かに、多くを受託として重点安全研究を実施している現状では、具体的なニーズのない研究を行っていくこと、成果の公開には委託元の確認が必要なため少しタイミングにずれが生じることはやむを得ないと認識している。また、先日も、理事長から、外部ニーズのみに対応するだけでよいのか、長期的視点に立って考えて見るよう命題をいただいたところであり、重要なことと認識している。

- ・ 安全研究はミッション・オリエンティッドなものではあるが、委託元の規制当局を満足するだけでなく、研究機関・研究者として独自のスタンスに立って実施することを忘れないで欲しい。
- ・ JAEA で実施されている重点安全研究が、実際の活用を見据えた研究になっているのは高く評価できる。

- ・ 長期的視点で安全研究を考える上では、次世代炉のような次の時代に向けた安全論理の構築も考える必要があるのではないか？
- ・ 安全研究審議会だけでなく、安全研究委員会等において、個別の課題に対する成果だけでなく、研究の進め方、例えば、国際的な研究動向や産業界の動向も踏まえた課題の設定の妥当性、長期的視点の盛り込み、ターゲットの設定の妥当性等についても議論できるように配慮いただきたい。
- ・ 安全研究審議会での議論が、安全研究委員会にフィードバックされるように配慮いただきたい。

3. 安全研究施設の活用について

石島センター長から、安研審 4-3 に基づき、原子力機構の安全研究施設の活用について説明があり、以下のような質疑応答が行われた。

- ・ 安全研究センターは委託ベースで仕事しているので、汎用性の高い実験施設を新規には作りにくいとは思いますが、既存施設の寿命を考えながら、施設を作れるよう知恵を絞って欲しい。
- ・ 各分野の安全研究ロードマップを踏まえ、戦略的に施設の活用を考えて欲しい。
- ・ 汎用性のある実験施設や基礎的なことを対象とした施設の利用は、何も安全研究センターだけではないと考えられるので、JAEA としての組織全体として活用や維持を考える必要があるのではないか？

JAEA に統合されたとき、施設の運営管理部門と、安全研究センターを含めたその施設を活用する研究開発部門とに再編されたが、運営費交付金の削減は独立行政法人の宿命であり、施設の活用・維持について関連部門で密接に連携していきたい。

4. 核燃料サイクル施設でのリスク情報活用に向けた研究について、リスク評価・防災研究グループの吉田研究主幹から紹介があり、以下のような質疑応答が行われた。

- ・ MOX 加工施設での MOX 粉末の臨界事故の取扱はどうなっているのか？
MOX 粉末の取扱量が最も多い混合槽を対象としても臨界事故の発生頻度は低く、リスク上重要とならなかった。
- ・ 今回説明のあった核燃料サイクル施設だけでなく、軽水炉も含めた原子力施設へのリスク情報の活用の実現に向け、JNES とも協力してやってほしい。
原子力学会の標準として、リスク情報活用のためのガイドラインが策定されているところであり、そこでは JNES だけでなく、事業者も参加して、産官学で議論しているところである。また、核燃料サイクル施設の安全評価にリスク情報をどう活用していくかについて体制を整えて取り組んでいきたい。
- ・ 核燃料サイクル施設の特徴を踏まえて PSA 手法を開発しているようで安心し

たが、さらに原子力全体のリスク・プロファイルを描き、安全研究のストラテジーの作成につなげられるよう頑張って欲しい。